V　まちの拠点を育む

「多くの人々が日常的に集い、楽しみ、憩い、賑わい、そして働く」まちの中心となる場所をまちの拠点として重点的に捉えることは、生活・文化・産業・交通などあらゆる面で幸区全体の積極的な向上、発展を図っていく上で極めて重要です。
ここでは、まちの拠点として、以下の６つを取り上げました。

■　まちの拠点とその位置づけ

1　賑わいの拠点　川崎駅西口周辺地区

・川崎市の窓口、京浜地区の広域的拠点として位置づけられる。
・近年、交通広場や商業・業務・文化の複合施設、都市型高層住宅群などが完成し、川崎市の新しい「顔」が生み出された。
・さらに東芝工場の大規模跡地堀川町において、首都圏を対象とする大規模商業施設及び都市型高層住宅群の開発が予定されている。
・堀川町の新規開発が加わり、西口の魅力がさらに高まること、そして地元地域に貢献する機能や空間が生み出されることに対し大きな期待が寄せられている。

2　賑わいの拠点　鹿島田駅周辺地区

・鹿島田駅周辺地区は、幸区の中核拠点・地域の生活拠点として位置づける。
・鹿島田駅周辺地区は、JR新川崎駅と隣接していることから、東京・千葉・宇都宮方面への利便性が非常に高くなり、業務ビルや中高層マンション群の立地が進んでいる。
・しかし、都市基盤が不十分、両駅へのアクセスが非常に不便であることから、鹿島田駅西地区では、市街地再開発が予定されている。
・地域の資源や地元商店街の振興を大切にしながら、西地区の面的整備を合わせた拠点としての街づくりが期待されている。

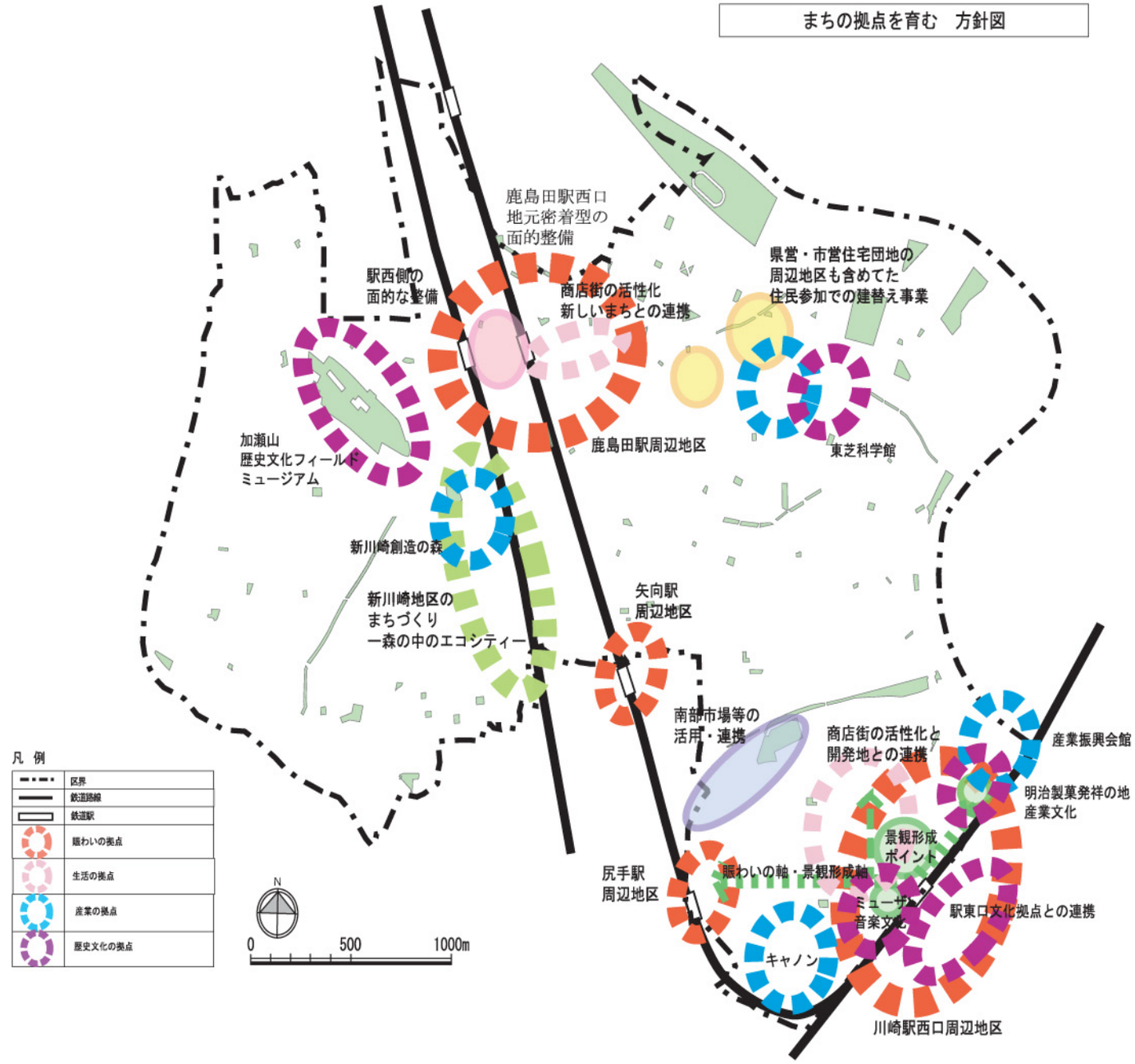
3　賑わいの拠点　尻手駅周辺地区・矢向駅周辺地区

・鉄道接続や幹線道路至便性のなどのために、周辺の生活空間を広くカバーしている幸区の「サブ拠点」として位置づける
・駅へのアクセスの改善、商店街の振興など現在の問題を改善し、周辺地域の生活拠点づくりが望まれている。

4　新川崎地区（新鶴見操車場跡地）

・新川崎地区は、区の中央部に位置し、区内に残された最大の開発地域であり、区民が描く「幸区の将来像」の中でも、最も期待がかかている地区でもある。
・エコの拠点、研究開発の拠点、商業・観光・交流の場、防災の拠点など多面的な視点から、区民の意向が反映された区の中心的拠点としての開発が期待されている。

まちの拠点を育む　方針図



5　産業の拠点

・幸区は、古くから産業のまちとして発展してきた。近年は、製造業が移転し、新川崎地区、東芝、キャノンなどIT、情報、知識・研究関連の新しい産業拠点が形成されつつある。
・これらを産業の拠点として位置づけ、新しい産業のまち「幸」を創出することが求められている。

6　歴史と文化の拠点

・区内に残された歴史・文化の核を、幸区の個性として大切に保全・継承していくために、まちの拠点としての位置づけ、また、こうした歴史的な遺産と、これから育つ新しい文化との融合を図り、幸区らしい文化を育んでいくことが求められている。